

国語 第2学年 かたかなのひろば

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、片仮名で表す身近な物の名前を選び、場面の様子が伝わる文を書く。読み返して長音や拗音、促音の表記を確かめる。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

————ここから直す対象の学習指導案————

第2学年 国語科学習指導案

1 単元名「かたかなのひろば」 教材名「かたかなのひろば」

2 単元の目標

片仮名で書く語の種類や長音などの表記を理解できる。自分の文を読み返し、音と文字の対応や語の続き方を確かめられる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①片仮名で書く語の種類や長音などの表記を理解している。〔知識及び技能〕(1)ウ)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、自分の文を読み返し、音と文字の対応や語の続き方を確かめている。(B(1)エ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

片仮名で表す身近な物の名前を選び、場面の様子が伝わる文を書く。読み返して長音や拗音、促音の表記を確かめる。学習指導要領のB(1)エを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)ウを、言語活動の中で確かめる。年間計画の重点は知識・技能であり、本案ではそれを使う言語活動の関連項目としてB(1)エを加えている。

(2) 児童について(学級の実態を書く)

(3) 指導について

独自例「ケーキ」「シャツ」などを声に出し、長く伸びる音と小さい文字の場所を確かめる。語の意味を絵と対応させ、学校で使う言葉の短い文にする。おおむね満足できる状況は、自分の文を読み返し、音と文字の対応や語の続き方を確かめているという姿で捉える。使った言葉を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画(全2時間)

第1次 第1時：○教科書の場面を手元で確かめ使う語を選ぶ。片仮名の語で短い文章を書く。評価：学習状況を見て支援する。

第1次 第2時(本時)：○音と表記を対応させて読み返す。場面が伝わるか友達と確かめる。評価：知①・思

①(発言・学習記録)

6 本時の指導(2/2)

(1) 本時の目標

自分の文を読み返し、音と文字の対応や語の続き方を確かめられる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「聞こえた音を文字にすると、どこに気を付けますか」

【めあて】片仮名で表す身近な物の名前を選び、場面の様子が伝わる文を書く。

予想される児童の反応：・ケーキは伸ばす音を線で表す。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「聞こえた音を文字にすると、どこに気を付けますか」

独自例「ケーキ」「シャツ」などを声に出し、長く伸びる音と小さい文字の場所を確認める。語の意味を絵と対応させ、学校で使う言葉の短い文にする。

自分の語や文、話し方を試し、相手が受け取った内容と比べる。直す箇所を自分で選び、理由とともに記録する。

予想される児童の反応：・ケーキは伸ばす音を線で表す。

・小さい文字を大きくすると聞こえ方が変わる。

・物の名前を片仮名で書けるようになった。

指導上の留意点：独自例「ケーキ」「シャツ」などを声に出し、長く伸びる音と小さい文字の場所を確認める。語の意味を絵と対応させ、学校で使う言葉の短い文にする。

想定するつまずき：長音を省く、シとツなど似た字を同じ形で書く、見付けた語をただ写す。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 自分の文を読み返し、音と文字の対応や語の続き方を確認めている。(発言と学習記録)

知① 片仮名で書く語の種類や長音などの表記を理解している。([知識及び技能] (1)ウ) (使った言葉・音読や表記の確認)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・物の名前を片仮名で書けるようになった。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確認める。

評価：態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

右端に教材名とめあて、その左に問い「聞こえた音を文字にすると、どこに気を付けますか」。中央は児童が使った語や文の例を並べ、確かめる箇所に印を付ける。その左に直す前と後の表現を並べ、変えた理由を線で対応させる。左端に、今日確かめた言葉の使い方を児童の言葉でまとめる。縦書きで右から左に学習の順をたどる。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

